

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社 泰葉 グループホーム泰葉
(ユニット名)	B棟
所在地 (県・市町村名)	長崎県北松浦郡江迎町北平免6-1
記入者名 (管理者)	国松 弘樹
記入日	平成 21 年 2 月 10日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>当事業者の理念をもとに日々家庭的な暮らしが送れるよう支援している。</p>	<p>○</p> <p>年度目標をあげ、職員が団結して取り組んでいる。(H20年度目標として協調性を養う。)</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>常に目標・理念を念頭におき質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>利用者が家庭的で日々穏やかに過ごせるよう一人ひとりの機能を生かした見守り介助を行っている。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>家族や地域の方に少しでもホームの暮らしが伝わるよう定期的にやすはだより(以下新聞とする)を発行し理念・目標を伝え理解を得ている。</p>	<p>○</p> <p>新聞を充実し理念・目標が地域の方に浸透するよう取り組んでいきたい。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>挨拶を交わしたりホーム内の行事や見学等気軽に訪問できるよう呼びかけている。</p>	<p>○</p> <p>当事業所内の行事の参加を呼びかけ地域の方との香りが深まるよう新聞の発行や声かけを行ってきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の行事には年間を通して何度か参加している。老人会には家族の協力で一部の方の参加があった。</p>	<p>○</p> <p>年々参加回数を増やし地元の人々との交流に努めたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の奉仕作業などへの参加はあるが現状では職員のみが参加している。	○	利用者の参加の意志があれば共に参加し地域との交流を深めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	目標を掲げケアの向上に努めている。	○	ミーティングや勉強会などで質の向上に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	さまざまなご意見・ご要望をいただき業務に活かしている。	○	今後は医師などにも参加していただき色々な分野からの視点をご意見で向上させていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と地域の現状、当事業所の現状などを話してサービスの向上に努めています。	○	社会福祉協議会との行き来はあるが新聞の発行回数を増やし連携を深めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	講習会等で知識を深めている。	○	講習会等に参加し対応できるよう学びたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会等の参加はしていないがミーティングや職員間で話し合い虐待防止に努めている。	○	勉強会への参加をし虐待防止について細心の注意をはらっていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時にはくわしく説明し理解、納得された上手続きをとっている。	○	今後も利用者・家族へのいきとどいた説明を行っていききたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	困り事・不満・苦情については早期の対応に心がけ困難な場合はミーティングなどで意見交換し解決策をとっている。	○	利用者の意見が繁栄出来るよう対策をとり対応していききたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活状況または健康状態に変化があった場合はその都度、面会時や手紙・電話にて報告している。	○	電話や手紙にて状況報告を続けていききたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と意見交換を行い苦情・不満・要望に関しては担当者が対応したり管理者・職員とミーティングを行い運営に反映している。	○	家族からの苦情・要望は遠慮なく意見をいただき事業所の運営に反映させていききたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は優先順位をつけ必要なものから反映している。職員間のミーティングは欠かさず行っている。	○	ミーティングで意見交換をし事業所の運営向上に反映させていききたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応が出来るよう職員は常に6~7名確保しており欠勤者が出た場合も公休の職員と勤務調整を行っている。	○	常時職員は6~7名確保できるよう勤務調整し柔軟な対応をしていききたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現状として職員の異動などはなく利用者に不安を感じさせる等の影響はないと思われる。	○	職員の異動・離職などの場合は利用者に不安をいだかせないよう対応して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員は段階に応じ研修会に参加し質の向上・スキルアップに努めている。	○ 年2回以上の研修会や講習会などの参加を行いいきとどいた支援ができるよう取り組みたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と連絡協議会を設置している。当事業所の発行する新聞を配布したり見学に行くなど積極的に交流している。	○ 当事業所にも見学など来ていただきスタッフ間での交流を深め意見交換などの機会を持ちたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ミーティング時に限らずあき時間に意見交換したり数ヶ月に一度親睦海を行っている。	○ ストレス発散の場を設けストレスにより体調を崩さないよう工夫したい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務調整をし各職員が向上心を持って働けるよう取り組んでいる。	○ 研修会などの参加回数を増やし介護の大切さを理解しやる気を引き出していきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	毎日のバイタルサイン時の会話などから困り事や・要望・精神状態をくみとるようにしている。	○ 利用者の訴え時には職員全員が理解し対処するよう努めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	全職員が積極的に会話の場をつくるようにしている。	○ 家族との信頼関係が出来希望・要望が話せる状態なので今後も続けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員が共通の意識を持ち対応している。	○	全職員が家族及び利用者の立場に立って考えていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ミーティングや申し送りなどで話し合い最良の方法を検討し実行している。	○	色々な場面を想定し雰囲気作りに工夫していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活暦や会話の中から喜怒哀楽を共有し利用者の気持ちを尊重し支援している。	○	職員間での情報の共有が大切なのでミーティングや申し送りを充実させていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力と共に利用者を支えている。	○	遠方の家族には電話や手紙などで情報を伝えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と職員との信頼関係を築くことで本人と家族との関係が修復できたことがある。	○	家族が安心できるような環境をつくってきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に見学や面会などに来ていただいたり付き添って行くなどしている。	○	家族や馴染みの方との付き合いが途絶えないような支援を続けていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立して引きこもりがちにならないようレクリエーション(以下レクとする)への参加を呼びかけたり利用者同志の会話にも職員が入って楽しめるような支援をしている。	○	職員が潤滑油となり日々の生活が送れるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病気の悪化などで長期入院され家族が再入所希望のある場合は主治医またはソーシャルワーカーと連絡を取っている。	○	入院日数など難しい問題点もあるができる限りのことをしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に添い満足いくよう努めている。	○	利用者一人ひとりにあった生活を検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	社協の担当者・家族からの情報を得ている。	○	職員間で話し合いより良い生活が送れるよう取り組んでいきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	変化があれば職員全員が情報を共有できるよう申し送りなどで伝達している。	○	職員間での情報の共有を徹底しスムーズに対応できるよう質の向上をめざしたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い職員の意見を聞いている。	○	本人・家族・関係者からの意見も取り入れ計画作成に反映していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期(3ヶ月)・長期(6ヶ月)で介護計画を作成している。	○	著しく変化がない場合は本人・家族の意見も積極的に取り入れより具体的に内容を充実し見直しが必要な場合はその都度作成していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	主治医の意見や日々の生活の様子・気づいた点など個人個人の記録に残し情報を共有している。	○	細かいことも見逃さないよう記録を充実させていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況を理解しながら対応している。	○	より良い支援に努めたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察・消防・民生委員の協力は得られている。	○	ボランティアの受け入れなども考えていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用したことはない。	○	今後必要な場合は他のサービスとも連携をとってきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入所後の状況などについては新聞を通して協働している。	○	蜜に連絡を取り合いアドバイス・意見を取り入れケアに役立てたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望で受診している。かかりつけ医が変更になる場合は本人・家族と相談している。	○	看護師常勤により信頼は得ておりさらに本人・家族が安心できるよう支援していきたい。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医ではないが主治医との連携はとれている。	○	適切な支援が出来るよう専門医の意見を取り入れたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	通院時などに利用者をよく知る看護職員とは気軽に情報交換できている。	○	協力関係が築けるように努めていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医と常に相談し病状を把握し退院の時期などを話し合いまた家族に対しても安心できるよう対応している。	○	信頼関係を維持して行きたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族などを交え主治医と相談し全員で方針を共有することに努めている。	○	本人・家族が負担を感じないよう努めていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師・家族と連携をとり状態の変化に備えて検討や準備をしている。	○	急変に備えて看護師はオンコール対応とし医師とも迅速に対応できるよう連携をとっていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化に慣れるまでに時間を要するので家族・ケア関係者から情報を得ている。	○	多方面から対応できるよう考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとり尊重して対応している。個人情報の取り扱いにも十分注意している。	○ 徹底していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員サイドで決めずに利用者との会話を大切にして理解し対応している。	○ 重度の認知症の方との接し方を学び質の向上に努めたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員がゆとりある気持ちで接し一人ひとりのペース・リズムに合わせて支援している。	○ 利用者のストレスとならないよう職員が穏やかに焦らず接するよう対応していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が希望する理美容室に送迎している。女性には化粧やマニキュアなど男性には髭剃りなどを身だしなみやおしゃれなどをしている。	○ 本人が意欲的におしゃれを楽しめるような企画を考えたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々 献立の希望を聞いたりして提供している。副食などを一緒に切ったり味付け・味見をお願いしたり配膳なども手伝っていただいている。また食欲をそそるような盛り付けにも心掛けている。	○ その方の能力に応じて手伝いなどができ楽しい食卓となるよう支援していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日替わりでおやつ・飲み物を提供している。希望時には時々アルコールを飲用している。	○ 生物などの差し入れを預かる際は特に注意したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	半数の方が自立されているが2～3名は声かけ誘導しないと排泄がスムーズに行かない為時間毎に促し誘導している。	○	利用者をよく観察しその方のリズムに合わせて誘導また促していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人で入浴できる方はほぼ毎日入浴を楽しんでおられ介助の必要な方は週2～3回と決め入浴している。必要時にはその都度対応している。清拭等は毎日行っている。	○	今後も利用者が入浴したい時に入浴できるよう支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方に合ったリズムで習慣的な生活が送れている。	○	安眠・休息できるよう環境づくりをしていきたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩がてら買い物に行ったり配茶や配膳などの手伝いをしていたり楽しみごととしては編み物・貼り絵などの支援をしている。	○	一人ひとりの力に応じて役割を決め張りのある生活が送れるよう支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理している方もおられる。買い物・散発・娯楽など希望時にはお金を使用できるようにしている。	○	買い物などの際には本人が自らお金を使用することの大切さを理解し職員は見守り支援を続けていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	徒歩での買い物や通院に出かけられている方もおられたり庭の草むしりなどを楽しむ方もおられる。	○	外出(ドライブ)などの回数を増やしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一部の方は家族と頻繁に外出されておられるが今年は予定日に体調を崩す方があり中止することとなり前年に比べ外出の回数が少なかった。	○	家族の参加を呼びかけコミュニケーションをはかっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほとんどの方が自ら電話をしたり手紙を書いたりされるが利用者からの依頼などが電話したり代筆したりしている。	○	今後も続けていきたい。年賀状など取り組みたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの方の訪問は頻回にあり気遣いなく過ごせるような空間づくりや雰囲気づくりをしている。また一緒に食事できるよう支援している。	○	さらに工夫していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。	○	身体拘束をしないケアに今後も努めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず見守りを行っている。夜間のみ防犯のため施錠している。	○	日中は職員が利用者の見守りを徹底していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通し安全に過ごせるよう配慮している。	○	安全に生活できるよう観察し見守りを徹底していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品はスタッフ見守りの中使用している。(アイロン・ドライヤー等)	○	利用者の希望に応じ使用できるよう支援し危険防止に努めていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	あらゆる事故に対し未然に防ぐ方法や発生時迅速に対応できるよう職員一人ひとりが注意を払い事故防止に取り組んでいる。	○	知識を深め事故を未然に防ぎ発生時には素早く対応できるよう取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師を中心に応急手当や初期対応が素早くできるよう日々話し合い知識を深めている。	○	今後定期的に訓練を行い継続していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の誘導をスムーズに行えるよう職員の意識を高めるとともに地域の方にも協力を得られるよう働きかけている。	○	今後とも地域の方の協力が得られるよう働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクに関して家族に十分に説明し抑制することなく職員で見守りを徹底している。	○	今後も続けていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	随時職員間で伝達し看護師や病院と相談し速やかに対応している。	○	速やかな対応ができるよう申し送りを怠らないようにしたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が理解し服薬の支援をしている。服薬管理・服薬の確認をしている。	○	体調変化などに注意し観察を怠らないようにして行きたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防として食物繊維・乳製品の摂取・水分補給をこまめに行い軽い運動をするなど工夫している。	○	スムーズに排便できるよう食事の工夫と一人ひとりに合った軽運動ができるよう支援していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	継続して行きたい。	○	継続して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	一人ひとりに応じて栄養摂取・水分補給できるよう支援している。	○	食事で摂取できない場合はおやつ等他の代用品での摂取を支援していきたい。
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	感染症の研修を受講するなど職員の知識を高めインフルエンザ・ノロウイルスなどに関しては細心の注意をはらっている。	○	入所前の健康診断で感染症などの検査をし事業所内で感染のないよう支援していきたい。
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	季節により生物などを控えたり加熱したり衛生管理に努めている。調理器具は定期的に消毒している。	○	徹底して続けていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	玄関周辺には花や人形を飾り明るくしている。通路には店頭防止のため物は置かないようにしている。	○	年間通して季節の花などを植栽して行きたい。
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	不快を感じさせることなく家庭的な空間づくりに心掛けている。	○	共有の空間は清潔感があり居心地の良い場所であるよう常に工夫していきたい。
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	ホールの一角にはソファーなど配置しくつろげる空間がある。	○	ゆったりと過ごせるような空間づくりを工夫していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が生活しやすい家具などの配置を工夫し本人・家族の意見も取り入れている。	○	使い易く心地良い居室づくりをしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに換気を行い温度・湿度の調整をしている。ホールには空気清浄機を設置している。	○	利用者の健康状態に応じ換気や温度・湿度調節をこれからも行っていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーではあるがフローリングのため店頭などのリスクがあるので利用者が安全に過ごせるよう見守りを徹底している。	○	見守りが主体となっているが利用者のADL低下など必要に応じて滑り止め(じゅうたん)など考えていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その方のリズムやペースで自立して暮らせるよう工夫し支援していきたい。	○	一人ひとりの力を活かした支援をしていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天候に配慮しテラおカスを活用している。(バーベキュー・日光浴をかねての軽運動・レクなど)	○	利用者が気軽に楽しめるレクを行っていきたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。  
 せるよう支援しています。またご家族が安心できるよう新聞を定期的に発行するなどコミュニケーションを図っております。

(この欄は、日々  
 当事業所は利用者が家庭的な環境の中で暮ら